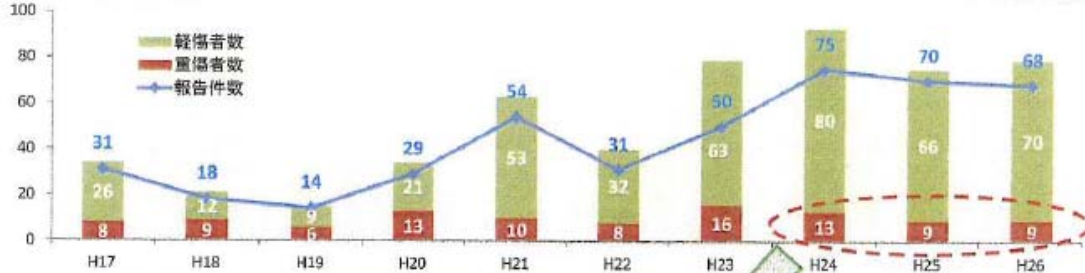


バスの車内事故の状況〈中部運輸局管内〉

- 重傷者は高齢者（65歳以上）の割合がほとんどである。
- 事故件数はH24年より減少はしているが依然多い状況である。

事故件数（件）
重傷者数、軽傷者数（人）

出典：自動車事故報告書
平成26年の数値は速報値

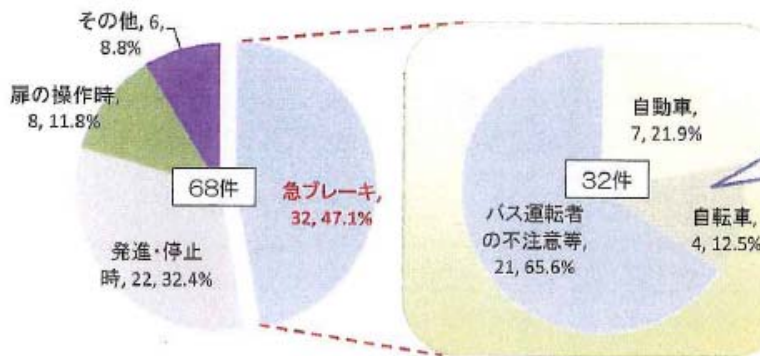


※平成26年の重傷者のうち
1人死亡。

	90歳代	80歳代	70歳代	60歳代	50歳代以下	
重傷者数（人）		2	18	7	1	3

※平成24年～平成26年の重傷者計31人中、
高齢者28人（約90%）

バスの車内事故の特徴



急ブレーキを作動させた事故のうち、他車（者）の要因も大きいと考えられるものがある。

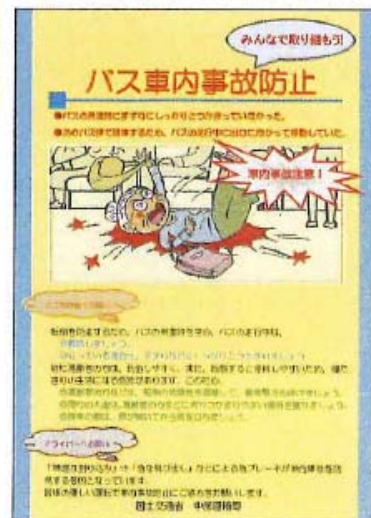
〈平成26年に発生した車内事故の発生要因〉

○ 車内事故は、バス等の運転者の過失によるものが多いが、一部、他車（者）の急な割り込みや飛び出しによるものもみられる。



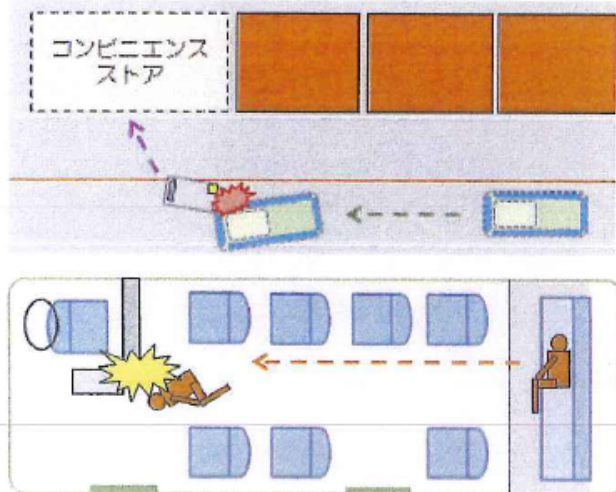
事故防止には、他車（者）の協力が不可欠

「無理な割り込み」や「急な飛び出し」などによる急ブレーキが車内事故を誘発する要因となっている。



乗客が死亡した事故の事例（車内事故） 〈中部運輸局管内〉

事故発生：平成26年2月 午後3時頃
 発生場所：愛知県常滑市
 事故概要：路線バスが乗客3名を乗せ運行中、前方で停止した軽自動車に追突し、車内の乗客1名（女性 40歳代）が転倒。当該乗客は、頭を強く打ち、病院に搬送されたが死亡した。



一般的に・・・

- バス車内
 - 立席者のための手すり、料金箱等の構造物が多い。
- 最後部座席中央
 - 前方に座席がない。
 - つかまる場所がない。
 - その他の座席より、一段高くなっている。

2

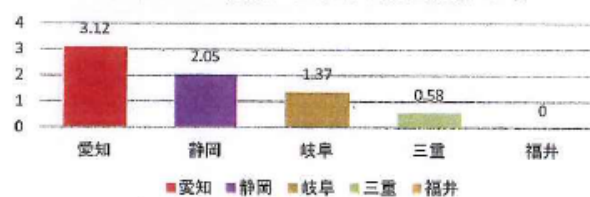
事業用自動車総合安全プラン2009の中部運輸局管内の取組み（バス）

【重点削減目標】 ○車内事故の防止（特に、発進時の車内事故削減を目指す）

中部管内各県における車内事故件数(H25年)

	乗合	貸切	その他	計
愛知	33	1	0	34
静岡	11	0	0	11
岐阜	5	0	0	5
三重	2	1	0	3
福井	0	0	0	0
計	51	2	0	53
割合	96.2%	3.8%	0.0%	100.0%

中部運輸局管内の一億輸送人キロあたりの車内事故件数(H25年)



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計(平成25年度版)」

見直し後の主な施策の内容

○ 事故発生状況等を踏まえつつ、現場に浸透するための対策を実施

◆ 重点削減目標 【新規】

車内事故の防止

◆ 重点削減目標に向けた具体的促進策

(1) 車内事故防止の具体的な取組み

<路線バス>

- ・停留所発進時における安全基本動作の徹底
- ・バスが停車してから離席する「ゆとり乗降」の啓発
- ・乗客が着席してから発車すること及び車間距離を確保する「ゆとり運転」の励行
- ・「ゆとり運転」の点呼時における徹底
- ・H23年6月「乗合バスの車内事故を防止するための安全対策実施マニュアル」の徹底

徹底

<貸切バス、高速バス>

- ・乗客へのシートベルト着用の徹底
- (2) 車内事故防止キャンペーン及び安全輸送決議の実施等
- ・毎年7月に車内事故防止キャンペーンを実施
- ・全国のバス事業者が一堂に会する全国バス事業者大会において行う安全輸送決議に、車内事故防止対策を盛り込む。
- ・メールマガジン等による広報活動

全国のバスにおける車内事故件数の推移(H20年～H25年)

